

擬似関係節と「言いさし文」 —「ノニ節」型を中心に—

小川 彩子

(関西学院大学大学院研究員)

関係節には一般的に、制限的關係節、同格的關係節、擬似關係節の三種類があるといわれているが、朝倉(2011)は先行詞が「人称代名詞のように特定のものを表わすときは、関係節は一般的に同格的」と述べていることから、(1)-(3)の下線部はすべて同格的關係節であるようにも思える。

(1) Moi qui vous parle, j'ai vu Napoléon une fois, à Chartres. (Zola, E. *La Terre*)

(2) (Jules Verne の « le Rayon vert »を読んだかと聞かれ)

Je l'ai terminé. Ah oui, je l'ai terminé, et effectivement, moi qui n'aime pas beaucoup Jules Verne, j'ai trouvé que ce Rayon vert était quelque chose d'assez extraordinaire. (*Le Rayon vert*, film d'Eric Rohmer, 1986)

(3) (ポリーヌは慈善活動として、恵まれない子供たちのためにキナワインを作っている。ある少女の父親がそのワインを飲んでしまったと聞き)

Moi qui prends la peine de le fabriquer ! disait Pauline. (Zola, E. *La joie de vivre*)

しかし、関係節が主節の主語の同格として機能している(1), (2)とは異なり、(3)から関係節を省くと主節がなくなってしまうことから、(3)は同格的關係節ではなく擬似關係節であると推測される。

また、(1), (2)は統辞的に完全な文であるのに対し、擬似關係節を用いた(3)は統辞的には名詞句であり文として不完全である。しかし、内容的には「わざわざ作っているのに」というようにワンブロックで事態を表現しており「文」としてみなされる。この統辞的には文として不完全であるという点および内容的には完全な「文」と同等の完結性を有するという点において、(3)は日本語学でいう「言いさし文」(例として(4)の下線部)と類似性があるのではないか。

(4)

永尾「(苦笑) —お邪魔します」

リカ「適当に座っちゃって」

永尾、座ると、テーブルの上に置いてあった作りかけのジグソーパズルを引っ掛けて、引っ繰り返してしまう。

永尾「あ」

リカ「え、あーっ！」

永尾「悪いー」

リカ「あー、後ちょっとで出来上がりだったのに」

(柴門ふみ『東京ラブストーリー』白川(2009:8-9))

本発表では、まず(3)のような<強勢形人称代名詞(以下、「強勢形」とする)+擬似関係節>は、日本語学でいう「言いさし文」のうちの「ノニ節」型に相当する表現であることを示す。次に、<強勢形+擬似関係節>と<一般的な名詞句+擬似関係節>の比較対照を行い、後者の表現についても「言いさし文」に相当するケースがあるか否かについて考察を行う。そして最後に、「言いさし文」としての機能を有する<強勢形+擬似関係節>は、元をたどれば同格的関係節から生じたものであるという仮説を立て、その立証を試みる。